

2025年度 ネバーランド居宅介護支援事業所事業計画書

<事業の種類>

- ・居宅介護支援事業所

<運営方針>

在宅で生活されている方、また、その家族の相談等に応じて必要な援助を行いできる限り在宅で、自立した生活が送れるように支援していく。
また、地域の方々にとって、身近な相談窓口として機能するように努める。

<基本事業>

- ① 利用者から相談を受けて、要介護認定の申請代行、取次ぎを行う。
- ② 認定後の福祉制度の活用や居宅サービス計画の作成、サービスの導入や連絡調整、モニタリング、給付管理業務等を行う。
- ③ 契約市町村より、委託を受け、要介護認定調査を行う。
- ④ 地域包括支援センターから委託を受けて、要支援1・要支援2の利用者の介護予防プランを作成し、介護予防サービス提供の確保、介護予防サービス事業者等との連絡調整等を行う。

<SWOT分析>

強み

- (イ) 併設している事業所を利用する目的で、新規相談がある。
- (ロ) 法人には、施設・在宅サービスなど多岐にわたる事業所を併設しており、利用者にとって安心して相談できる。
- (ハ) さまざまな地域貢献の取り組みを行っており、地域住民とつながる機会になっており、新規の利用につながっている。
- (ニ) 法人には、多職種の専門職がおり、地域活動を行う際に、専門的な情報提供ができる
- (ホ) 地域の自治会や民生委員と繋がりがあり、定期的に情報交換できる機会がある為、法人の情報発信ができる。

弱み

- (ヘ) 人材育成や職員のスキルアップを目的とした取り組みができていない。

機会

- (ト) 2025年には、後期高齢者の対象となる人口がピークを迎える為、今後利用者も増加する事が考えられる。また、独居高齢者も増加傾向にある。
- (チ) 船津校区の高齢化率が38.8%と高い
※全国平均29.3% (2024年9月時点)

脅威

- (リ) サービス付き高齢者住宅やデイサービス等、介護事業所の増加により、併設又は関連居宅介護支援事業所を利用するケースが増えている。
- (ヌ) 今後、国の政策が、地域包括ケアシステムとなり、予防重視に転換し、介護保険サービスの利用を抑制し、地域で支え合う動きがある。

<事業計画>

1、強みの (ハ) (ニ) (ホ) 機会の (ト) (チ) より

・ 楽笑カフェ (認知症カフェ)

(目的)

認知症になっても、安心して暮らすことができる地域になる為、地域の誰もが集える場となり、お互いに語り合い、認知症に対して理解し合える場とする。また、認知症の当事者や家族が孤立・孤独にならないようにする。

主に、認知症に関する内容のミニ講話とカフェタイムを行い、対話を中心にゆったりとした時間を過ごして頂く。

(開催場所)

- ・ 船津公民館
- ・ 船津町内の各地区の集会所等

(実施頻度)

- ・ 船津公民館 月 1 回第 2 水曜日
- ・ 船津町内各地区 各年 2 回

・ 出張カフェ

(目的)

地域の「つどいの場」に参加し、そこで健康維持につながるような健康・栄養に関する事や、介護予防・認知症予防に関する内容の講座を行う。

また、地域住民との交流を通じて、地域の課題を把握したり、介護相談を受ける機会とする。

(開催場所)

船津・豊富町各集会所

(実施頻度)

年 4 回

・ ぴっぷネバーランド

(目的)

民生委員と必要な情報を共有し、地域の高齢者のよりよい支援につなげる為に、気軽に相談して頂けるような関係性をつくることを目的とする。また、民生委員とより身近に接することで、コミュニケーションが深まり、地域の身近な相談窓口としての役割が期待できる。

(実施方法)

時事の情報発信や民生委員との関わりを通して、民生委員が興味関心のある研修内容を実施する。

(実施頻度)

年2回(7月、2月)

2、弱みの(へ)

・人材育成及びスキルアップ

利用者個々に適したケアプランの立案能力、制度やサービスの知識を正確に把握することが重要であることから、管理者が主となって、定期的に勉強会を開催する。

また、外部研修にも積極的に参加して、ケアマネジャーとしての質を高め、利用者、家族、各事業所に信頼され、選ばれるケアマネジャーを目指す。

<ケアプラン件数年間目標>

- ・2025年1月現在 ケアプラン件数 平均73件/月
- ・2025年度目標 ケアプラン件数 平均90件/月 年間1,080件

<年間目標達成のために取り組むこと>

① 地域包括支援センターや医療機関との連携を強化して利用者獲得を目指す

新規利用者のうち、地域包括支援センターからの紹介が1番多く、地域包括支援センターとのつながりは重要である。

毎月、地域包括支援センターへ訪問し、空き状況や利用者の状況報告、地域に関する情報収集などを行い連携を図る。

また、医療機関の地域連携室と連携を図るために、直接出向いて情報交換や空き状況を伝える事により、新規利用者獲得につなげる。

② コスト削減の取り組み

2024年度から、経費削減の為、他事業所へ送る書類など可能な限りペーパーレス化を進め、印刷費や通信費の削減に取り組んできた。引き続きコスト削減に向けた取り組みを行っていく。

また、できる限り、勤務時間内で業務を終えるように業務の効率化を図り、人件費の削減や節電につなげる。その為に、職員のスキルを向上させることが必要であり、個々の業務の幅を広げて、生産性の向上にもつなげる。

そして、医療機関や他事業所へ赴く際には、ケアマネジャーとして情報提供するだけでなく、法人職員として、当法人の他事業所の営業や取り組みを伝え、法人全体としての収益向上につながる様にする。

③ 地域貢献について

少子高齢化が急激に進む中、地域のつながりの希薄化、核家族化で、今後ますます地域コミュニティの弱体化が懸念されている。

このような状況の中、法人として地域の課題やニーズを把握し、公的な福祉サービスでは対応できない部分を「地域貢献活動」として取り組んでいく。

地域団体と連携し協働で取り組むことで、社会福祉法人としての地域での存在価値を高める事にもつながる。

また、介護現場の人手不足も深刻な問題である為、さまざまな世代を対象とした活動を通して、福祉に関心を持って頂く機会とし、特に若い世代に対しては、将来ネバーランドで働きたいと思って頂けるようにしていきたい。

※計画の詳細は、別紙参照

地域貢献活動計画書

「ぴっぷ  ネバーランド」として、さまざまな地域貢献活動を継続し、地域住民の身近な相談窓口となる。

楽笑かふえや公民館活動を通して、地域住民のより身近な存在となり、相談しやすい関係づくりをすすめる。また、このような活動を通して、世代を超えた地域全体の困りごとやニーズを把握し、それらを地域貢献活動の内容に盛り込んでいきたい。

また、参加者から介護相談を受け新規利用につながったケースもあり、これからも地域住民にとって、より身近な相談窓口としての役割も果たしていく為に、以下の活動を実施する。

① 楽笑かふえ

内容：認知症カフェとして、カフェタイム・ミニ講話を実施する。

場所：船津公民館

回数：毎月第2水曜日

② 出張楽笑かふえ

内容：楽笑かふえを地域の集会所等に出向き実施する。

場所：船津町内10ヶ所の集会所

回数：各地区年2回

③ 出張カフェ

内容：介護予防・認知症予防に関する内容を実施する。

場所：船津・豊富町内の集会所

回数：年4回

④ 介護者のつどい

内容：介護者どうしの交流や情報交換の場とする。

場所：ネバーランド、船津公民館

回数：ネバーランド、船津公民館各2回

⑤ ぴっぷネバーランド

内容：民生委員への情報提供及び情報交換・交流を行う機会とする。

場所：バリーホール

回数：年2回

⑥ 作品づくり

内容：子供から大人まで幅広い世代を対象に、様々な作品作りを行う。

場所：船津公民館

回数：年2回

⑦ コグニケア

内容：認知症予防の為に「頭と体の健康教室」「健康づくりセミナー」「健康づくりの見える化」をパッケージした教室である。

場所：船津公民館

回数：毎週火曜日

⑧ コサージュ・メッセージはがき

内容：船津小学校、神南中学校、福崎西中学校の入学生、卒業生に贈る為に作成する。